

教育 つるおか



2 0 2 4

令和6年3月1日

編集・発行／鶴岡市教育委員会事務局管理課
〒997-0346

山形県鶴岡市上山添字文栄100

電話 0235-57-4861

FAX 0235-57-4886

メールアドレス kkyouiku@city.tsuruoka.lg.jp

http://www.city.tsuruoka.lg.jp/

Tsuruoka Public Education Announcements Vol.20



令和5年7月25日(火)～27日(木)、兄弟都市鹿児島市へ親善訪問使節団生徒含め14人が5年ぶりに訪問。現地交流した鹿児島市立緑丘中学校と市電「鶴岡号」と記念撮影。加藤弘人団長(鶴三中校長)、佐藤諒平教諭(鶴五中)、佐藤知穂教諭(鶴一中)が引率し、菅百々花さん(鶴一中)、齋藤諒さん(鶴二中)、富樫真花さん(鶴三中)、菅秀真さん(鶴四中)、佐藤滉弥さん(鶴五中)、佐藤佳穂さん(豊浦中)、太田陽和さん(藤島中)、佐藤一矢さん(羽黒中)、渋谷優月さん(櫛引中)、中村伯さん(朝日中)、本間瑠唯さん(温海中)が参加しました。

P2～3

・『楽しい体験』で海の魅力を感じる
～海洋教育推進事業の取り組みの紹介～
(学校教育課)

- ・鶴岡市地域子育て推進講演会
「叱らなくても子どもは伸びる」(社会教育課)
- ・荘銀タクト鶴岡 開館5周年記念事業
「つるおか市民で歌う第九」(社会教育課)

P4

・国際バドミントンU16庄内2023 (スポーツ課)
・子ども夢スポーツフェスティバル (スポーツ課)
・子どもたちと地産地消を推進しています
～あさひ給食センターの取り組み～
(学校給食センター)



かごしま水族館に加茂水族館のクラゲ展示があり、兄弟都市のつながりを実感した生徒たち。

「楽しい体験」で海の魅力を感じる 海洋教育推進事業の取り組みの紹介

【子どもたちの声】

「海に来て、魚や、かにに触れ合うことができても楽しかったです。」

「はじめてサップに乗って、最初は難しかったけど、乗れるようになることも面白かったです。」

「庄内浜で取れた魚をおいしく味わうことができ、海のことをもっと好きになりました。」

「海のごみがこんなにもたくさんあるということに驚きました。僕たちにできることを考えていきたいです。」

これは、今年度、海での学習に取り組んだ子どもたちの感想です。地球環境の変化に伴い、海的环境保全の必要性も重要視され、子どもたちも環境を守っていくことの大切さは認識しています。

しかし、環境のために何かを実践しているか？と問われるとなかなか難しいのが現状です。

鶴岡の海や自然環境を守る行動を実践できるようにするためには、様々な海での活動を通して、直接海の豊かさや雄大さに触れ、楽しみながら海の魅力を感じることが重要であると考えます。

【海洋教育推進事業の紹介】

そこで、教育委員会では今年度より海洋教育推進事業に取り組み、笹川平和財団が行っている海洋教育パイオニアスクールプログラムを活用し、小学校全26校を対象に、子どもたちが実際に海に来て学ぶ活動や海洋教育を支援しております。

様々な海洋教育活動の中から、主な三つの内容について紹介いたします。



座学講座「海について」



海ごみアート

一つ目は、加茂水族館における「海ごみ学習会」です。

今年度より加茂水族館では、これまで行ってきたクラゲ学習に加え、新たに「海ごみ学習会」を行っております。今年度は4校より117人の小学生が参加しました。子どもたちの感想からは海ごみの現状や海ごみが自分たちの生活と密接に繋がっているということに驚きながら学んでいる様子が見られました。また、座学で海ごみについて学習するだけでなく、マイクログラスチックやシグラスといった海ごみを活用した制作活動も行っています。子どもたちは実際に海ごみを活用し、きれいな作品を作り上げながら、楽しく学んでいます。

二つ目は、「渚の交番カモンマール」における海に親しむ活動です。

カモンマールでは、磯遊びや磯釣りなどの低学年でも楽しめる活動から、シーカヤックやヨット、サップの体験など、普段親しむことが難しい海でのアクティビティに挑戦することができます。カモンマールのある加茂レインビーチは、防波堤に囲まれているため波が大変穏やかです。こうした環境は、初めてマリンアクティビティに挑戦する子どもたちにとっては、とても親しみやすく、安全に活動できる最適な環境となっています。

今年度は547人の小学生が実際に体験を行いました。体験した子どもたちは、素敵な笑顔と共に、とても楽しそうに学校へと帰っていきます。こうして海に親しみながら、海の楽しさを感じる活動は、海的环境保全活動へと繋がる大切な体験だと考えます。「海って楽しい。」「海ってすごいな!」と感じる体験が、「海を大事にしたい。」「海を守りたい。」という想いや行動に繋がる土台となっていくきます。

三つ目は、関係団体との連携強化を図る取り組みです。小中学生を対象とした海に関わる様々な体験活動を実施して下さっている施設、団体が市内には数多くあります。こうした豊富な教育資源を有効に活用し、子ども達に『楽しい体験』を広げていくため、各種研修会や会議等の場を活用しながら小中学校にも取り組み内容を情報共有し、より一層子どもたちが楽しく学べるよう連携を深めてまいります。



磯遊び活動



磯釣り体験

【結び】

『花より根を育てる』という庄内藩時代から大切にしている鶴岡の教育理念のもと、今後も海の魅力を感じられる『楽しいと思える体験活動』と『海洋教育』の充実を図ってまいります。

鶴岡市地域子育て推進講演会

叱らなくても子どもは伸びる

7月1日、教育評論家 親野智可等（おやの・ちから）氏をお迎えして、鶴岡市地域子育て推進講演会を開催いたしました。

終始にこにこ笑顔の親野先生からは、日々の子育てに一生懸命な保護者や子どもと接する大人への、温かなアドバイスが散りばめられたお話を存分に頂くことができました。ご講演の話題を少々ご紹介いたします。

☆叱つてすませずに合理的な工夫をする☆

親は、子どもが小さいうちなら苦手なことができるようになると思いがちですが、まづもつてできるようにはなりません。子どもというのは、今日の今ここを一生懸命に楽しんでます。直して欲しいことは直らないけれども、ずっとそうではありません。上手に待つことが大事と言えます。例えば、歯磨きを忘れて子どもが怒られることがあります。これは怒っても仕方がないので、



笑顔で語る親野先生

大人が仕組みを工夫することが大切です。ご飯を準備する時に、歯ブラシも一緒に出しておくとか、歯磨きを忘れないでできるようにする仕組みにすればよいでしょう。合理的な工夫をすると、うまくいくことが多いです。工夫して、明るく手伝ってあげましょう。うまくいかなければ、一旦「あきらめてみる」のも方法です。今、直さなくてもよいと考えることもできます。

☆自己肯定感を高める「ほめ写」☆

言葉の他に、写真で褒める「ほめ写（しや）」を紹介いたします。これは家に子どもの写真を飾って褒めることです。どんな写真かという点、家事や運動を頑張っている姿、頑張りが達成できた記念の写真、家族に囲まれてにっこり笑顔、などの写真です。やり方は、子どもの目の高さちょうど大きめに印刷した写真を貼って褒めてあげる、というものです。子どもに、「あなたのことを大切に思っているよ」という気持ち伝わり、ありのままの自分でいて良いんだ！大丈夫なんだ！という心の土台ともいえる感覚（自己肯定感）が上がると言われています。

親野先生からは「親は監督でなく応援団に徹すること」という言葉がありました。保護者が子どもを思う愛情をどのように行動し、表現して家庭での子育てに活かすことができるのかについて具体的な事例を示していただいたことで、講演後のアンケートからは感謝の声が多く寄せられました。また、「保護者の小さな日々の言動が大きな愛情の積み重ねとなって、子どもが自分の人生に自信をもって幸せに生きる心の土台が作られる」という大切な事もお話しいただきました。

荘銀タクト鶴岡開館5周年記念事業 つるおか市民で歌う第九

荘銀タクト鶴岡の開館5周年記念事業として「つるおか市民で歌う第九」が9月30日に同館で開催されました。

指揮者に阪哲郎氏を迎え、国内トップレベルのソリスト4人と共に、山形交響楽団のオーケストラでベートーヴェン「交響曲第9番 二短調 作品125（合唱付き）」を「タクトつるおか合唱団」が歌い上げました。

合唱付きの「第九」の演奏としては鶴岡市で23年ぶりとなり、公募で選ばれた86人の「タクトつるおか合唱団」が、4月から約20回の練習やドイツ語の発音練習を行い、当日の公演に臨みました。

本番は、山形交響楽団の演奏から始まり、最後の4楽章ではクライマックスに向けて「タクトつるおか合唱団」の圧巻の歌声が会場内に響き渡りました。

会場には約800人の聴衆が詰めかけ、演奏終了直後には湧き上がる拍手の中、「ブラボー」の声も聞こえ、鳴りやまない拍手は10分以上続きました。



会場全体に広がる美しい歌声とハーモニー

国際バドミントンU16庄内2023

7月1日・2日、中学生世代（16歳以下）を対象にしたバドミントンの国際大会が、鶴岡市の小真木原総合体育館で4年ぶりに開催され、欧米やアジアの強豪国と日本の計10か国の次世代のホープが出場し、世界トップレベルの戦いが2日間にわたって繰り広げられました。

大会は男女シングルスで行われ、大会1日目にあつた予選リーグを勝ち抜いた上位8選手が、2日目の決勝トーナメントで優勝を争いました。決勝は、男女ともに最終セットまでもつれる白熱した展開となり、長いラリーが続いた後にショットが決まると、観客席から一斉に大きな拍手が送られました。観戦した子どもたちも、闘志あふれるプレーと一流の技術に目を輝かせていました。



鶴岡代表として善戦する難波選手（鶴三中）

子ども夢スポーツフェスティバル

10月8日に、子ども夢スポーツフェスティバルin鶴岡2023をJA鶴岡だちやアリーナを会場に開催しました。

本イベントは、子どもたちが運動の楽しさを知るきっかけとなるよう、親子で一緒にスポーツを楽しめる内容を盛り込みながら、毎年実施しているものです。

今年は、未就学児でも楽しめる「子ども遊び応援ブース」の設置や、県内プロスポーツチームから子どもたちへの応援動画の放映など、新たな取り組みを加えて開催しました。945人の参加者がバブルサッカーやキッズチャンバラ、ストラックアウトなど10種目のニュースポーツに挑戦し、親子一緒に楽しむ一日となりました。



子どもたちと地産地消を推進しています

あさひ給食センターの取り組み

朝日地区は、庄内平野の最南端に位置し、東に月山、南に朝日連峰の以東岳があり磐梯朝日国立公園に指定されています。緑豊かな自然環境に囲まれ、米、野菜、山の幸に恵まれた地区です。

朝日地区の給食は、以前は単独校調理方式でしたが、平成13年3月にあさひ給食センターが完成し、同年8月から小中学校5校611食の調理を開始しました。現在は、小中学校2校238食を作っています。HACCPの概念に基づいた安全で衛生的なオール電化設備になっており、炊飯もセンターで行い、炊き立てのごはんを提供しています。

献立は、地産産食材をより多く提供するため、地元の生産者グループ「旬菜倶楽部」から野菜や山菜を納品していただき、その他にもJAやあぐり、県漁協、地元商店等と連携し、地産地消に取り組んでいます。

あさひ給食センターの特徴的な取り組みをご紹介します。朝日の特産物『月山ワイン』を

ハンバーグソースや煮込み料理などに使用し、毎年8月の開設記念献立には、山ぶどうシャーベットの取り入れています。

『魚ザぎよざのぎょうざ』は、平成30年にあさひ小の6年生が総合学習で取り組み、考案した魚の餃子を地元の鮮魚店さんに手作りしていただき、人気メニューとなっています。原料の魚は、由良や鼠ヶ関産のマダイなどを使用しています。

また、あさひ小学校では旬菜倶楽部さんが来校して交流給食を実施しており、コロナ禍により中断しましたが、今年度再開され、生産者の思いや地産地消の良さを伝える良い機会となっています。

ここ数年の食材の価格高騰により献立づくりも厳しい中ではありますが、今後も地域の方々と連携しながら地産産食材を活かした給食を提供していくとともに、学校給食を通して食に携わる方々への感謝と食の大切さ、郷土を思う心を育てていきたいと思っています。



※HACCP（ハサップ）：食品衛生管理の手法